

経営比較分析表（令和4年度決算）

愛知県 名古屋市

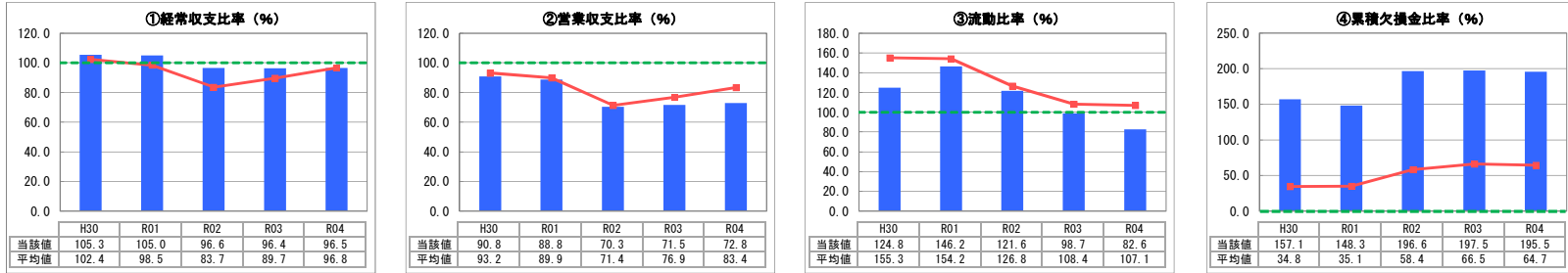
業務名	業種名	事業名	管理者の情報
法適用	交通事業	自動車運送事業	自治体職員
資金不足比率（％）	営業路線（km）	年間走行キロ（千km）	在籍車両数（両）
-	763.4	35,868	1,014
職員数（人）	管理の委託割合（％）	民間事業者の有無	地域公共交通計画策定の有無
1,542	37.0	有	無

※民間事業者の有無とは、行政区域内で民間バス事業者が運行しているかどうかを指す。

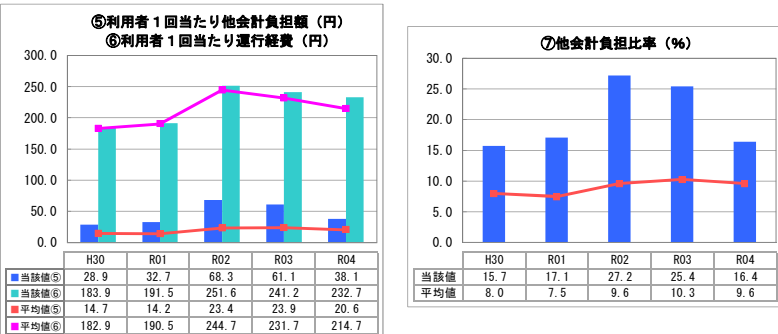
	H30	R01	R02	R03	R04
年間輸送人員（千人）	128,734	127,453	96,233	101,870	107,861
他会計負担額（千円）	3,719,168	4,170,402	6,572,982	6,229,189	4,107,291

1. 経営の健全性

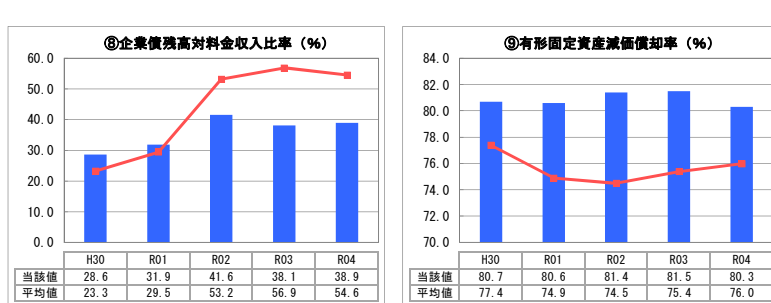
○事業の状況



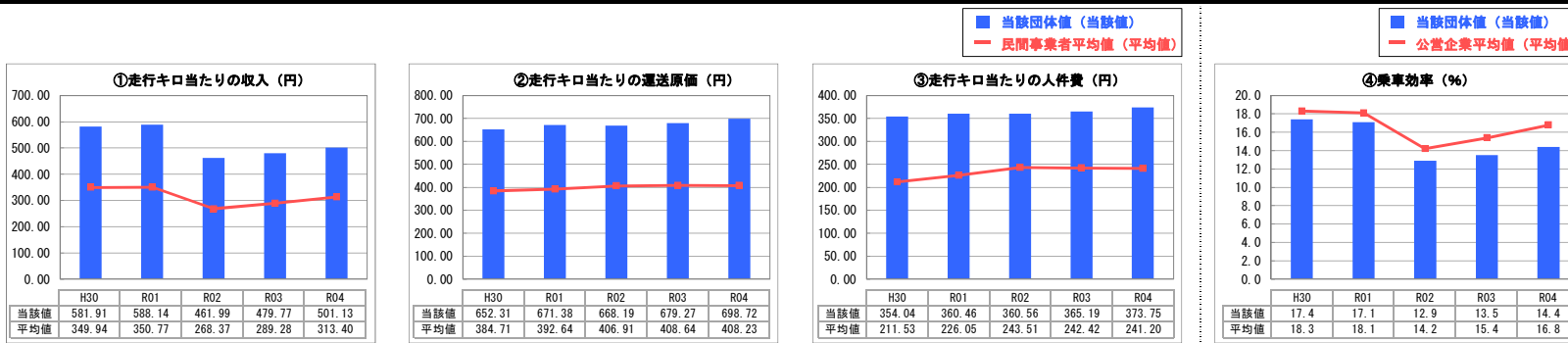
○独立採算の状況



○資産及び負債の状況



2. 経営の効率性



※民間事業者平均値は当該団体が所属する標準原価ブロックの民間平均値

分析稿

1. 経営の健全性について

① 経常収支比率は令和元年度までの過去2ヶ年は黒字を確保しており、公営企業平均値や目標値を上回っていたが、令和2年度以降の3年間は赤字となり、ほぼ横ばいで推移した。

また、② 営業収支比率も過去5ヶ年赤字で目標値を下回っており、いずれの年度も公営企業平均値を下回っている。新型コロナウイルス感染症の影響による運輸収益の減少が続いた他、人件費やエネルギー価格高騰に伴う経費の増加により、令和2年度に悪化した。① 経常収支比率、② 営業収支比率、④ 累積欠損金比率はいずれもほぼ横ばいの状態が続いた。

③ 流動比率は令和2年度までの過去3ヶ年は目標値を上回っていたが、令和4年度は令和3年度に引き続き、目標値、公営企業平均値ともに下回った。

⑤ 利用者1回当たり他会計負担額や、⑦ 他会計負担比率は、公営企業平均値を上回っているが、令和4年度は減少した。

⑥ 利用者1回当たり運行経費は、令和4年度は減少したものの、令和元年度までと比べると依然として高い水準にある。これは、年間輸送人員の減少が続いた他、経費費用が増加したことによるものである。

⑧ 企業債残高対料金収入比率は、企業債残高の増加率と運輸収益の増加率がほぼ同じであったため、ほぼ横ばいであった。

⑨ 有形固定資産減価償却率は、過去5ヶ年は80%程度で推移している。

2. 経営の効率性について

① 走行キロ当たりの収入は同じ地域内の民間事業者の平均値を上回っているが、新型コロナウイルス感染症の影響による運輸収益の減少が令和4年度も続いたことから、令和元年度と比べると低い水準である。

② 走行キロ当たりの運送原価も民間事業者平均値を上回っているが、これは③ 走行キロ当たりの人件費が民間事業者平均値を上回っていることが主な要因となっており、引き続き経営改善を行うこととしている。

④ 乗車効率は公営企業平均値を下回っており、新型コロナウイルス感染症の影響による運輸収益の減少が令和4年度も続いたことから、令和元年度と比べると低い水準である。

全体総括

令和4年度の運輸収益は前年度より増加したものの、支出では人件費やエネルギー価格高騰に伴う経費の増加があったことから、経常収支が3年連続の赤字となり、非常に厳しい経営状況となっている。

こうした中、名古屋のまちの将来に貢献できるよう、人々の価値観や生活様式、社会・経済情勢などの事業環境が大きく変わる時代に適応し、持続可能な経営を実現するために、令和5年度に経営計画の策定を予定しており、引き続き収入増加策の展開や業務の省力化・効率化などの経営改善に取り組むことで、収支の改善に努めていく。